

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会議の名称	第2回吉川市産業振興会議
開催日時	平成30年 7月2日(月) 午前・午後 2時00分から 午前・午後 3時50分まで
開催場所	吉川市役所 301会議室
出席委員(者)氏名	<p>【産業振興会議委員】 生田 貴之、近藤 旭、柏瀬 浩史、太田 久年、染谷 直志、 程田 幸秀、蓮見 良平、山崎 守</p> <p>【委員以外の出席者】 尾崎 えり子(株式会社新閃力 代表取締役)、中原 恵人(市長)、堀 川 昌昭(産業振興部副部長)、油川 誠(農政課課長補佐)、斎藤 歩 美(地域福祉課課長補佐)、相川 美佐子(市民参加推進課男女共同 参画・文化交流担当主査)、荒木 昌彦(都市計画課課長補佐)、城 取 直樹(教育委員会教育総務課管理係長)、大滝 利和(環境課環 境保全係長)</p>
欠席委員(者)氏名	鈴木 努、田口 政博、石田 宏記
担当課職員職氏名	<p>産業振興部 商工課 課長 櫻井 敬雄 商工課 課長補佐 鈴木 康雄 商工課 商工観光係 主任 小島 慎平</p>
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>○第2回吉川市産業振興会議</p> <p>1. 開会 2. 議題(公開) (1) 産業振興計画について (2) その他 3. 閉会</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	5人
会議資料の名称	<p>資料1 次第 資料2 吉川市産業振興計画案 資料3 産業振興に関する自由意見ヒアリング結果</p>
会議録の作成方法	<p><input type="checkbox"/>録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/>録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/>要点記録</p>

会議録確認指定者	染谷直志、程田幸秀
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p>○第2回吉川市産業振興会議</p> <p>1. 開会 太田会長より、会議録確認指定者として近藤委員、柏瀬委員を指名。各委員了承。</p> <p>2. 議事 専門的知見から意見を伺うため、オブザーバーとして参加頂いた尾崎社長より、子育てや介護と仕事の両立における課題、人材育成やテレワークの事例、地域コミュニティとの関わり等について、サテライトオフィス「Trist」の紹介を通し、事例の説明を頂いた。</p>
中原市長	サテライトオフィスで、高校生が子供の面倒を見る、高齢者が食事を作る等、地域住民の参加もあると伺ったが、一つのオフィスの中で行っているのか。また、オフィスはどの程度の広さなのか。
尾崎社長	一つのオフィス内で行っている。食事の提供は食品衛生法上の許可が得られれば可能で、それほど大きなスペースは必要としない。空き店舗をリフォームした第1号オフィスは約95平米、市の元消防の倉庫をリフォームした第2号オフィスは約250平米。
山崎委員	学生や高齢者をどのように取り込んだのか？
尾崎社長	自分は「面白い」と感じてもらえる企画をしたのみ。高校等から自然と声が掛かり、実現に至った。小さな民間企業が行うことで、自分がそこに入ったら何か変えられるのでは、という余白部分を市民の方が感じることができているのではないかと思う。
近藤委員	民間学童について、学童の運営は地域コミュニティからの参加者だけでは成り立たない。そこで働く方はどのように集めているのか。
尾崎社長	民間学童は予備校運営会社が運営し、職員の採用を行っている。自

	分は新規事業アドバイザーとして立ち上げに関わった。
山崎委員	無料でやっている人材育成プログラムに人は集まっているのか。
尾崎社長	集まっている。無料にしているのは、金銭面で教育の機会を奪いたくないため。ただし、1ヶ月程度のハードなプログラムなので、プログラム完遂のハードルはある。しかし、それを乗り越えた人が、テレワークができる人材として企業から声をかけて頂けると考えている。
中原市長	自治体職員のテレワークについてはどうか。吉川市の職員も市外の採用が増加し、女性も多い。一人ひとりに合わせた働き方が望ましいが、対面型の仕事も多いため判断が難しい。
尾崎社長	多くの職員が市内に住んでいる状況では、働き方を柔軟にする必要性がないかもしれないが、市外から来ている人が多い場合、考える必要はあるかもしれない。例えば佐賀県では職員がテレワークで在宅勤務の試みが進んでいると聞いている。
中原市長	男性の利用者も増えていると聞いたが。
尾崎社長	共働きの子育て世代、親の介護、あるいはダブルケアのために利用している男性がいる。Tristでは、自宅の近くで働けるというメリットに加え、地域のネットワークも活用できる点が強み。
近藤委員	サテライトオフィスには、机と間仕切りがあり、そこに異なった会社に所属する人が集まって仕事をしているイメージでよいのか。
尾崎社長	その通り。なお、企業向けの個室も準備し、セキュリティレベルの高い仕事もできるようにしている。また、仕事の内容によってテレワーク可否を判断する事例もある。例えば、セキュリティレベルの高い内容は本社で行い、そうでないものはテレワークで行うなど。仕事のセキュリティや目的に合わせて出勤場所を変えるという手段もあり、サテライトオフィスの活用として上手くいっている事例でもある。
近藤委員	「流山の人材」をブランドにしたいという点、TX沿線の流山市は東京へのアクセスもよく、自身のキャリアを大切にしたいという人が

尾崎社長	<p>多く住んでいるイメージがある。それゆえに優秀な人が多く、サテライトオフィスのニーズも大きいと感じる。吉川ではどうだろうか。</p> <p>人材不足は喫緊の課題。キャリアや専門性ではなく、素直で成長意欲があり、コミュニケーションを円滑に取れる人であれば、採用したいという話を企業から頂く。</p>
程田委員	<p>人材を確保したいという流山市内の企業はないのか。</p>
尾崎社長	<p>あると思う。私は選択肢を増やしたい。市内の企業さんとお引き合わせをしたこともある。市内の企業もそれ以外の企業も自分のキャリアに合わせて選べることが重要。</p>
程田委員	<p>中小企業でも管理・経営を行う人材のニーズはあると思うが。</p>
尾崎社長	<p>働ける時間が短い人にどのように仕事を任せ、評価し、キャリアアップさせていくのか、という方法を今後の人材獲得競争に向けて社内に新たに作っていかなければならない。100人規模になるとなかなかルールを変えるのが難しいが、そこにチャレンジしていく企業が増えれば企業とワーカーのニーズはマッチすると思う。</p>
太田会長	<p>働く場所は地元でも、人材が東京の会社に流れてしまうのをどう捉えるか。</p>
中原市長	<p>能力を最大限発揮して働くのは、その人にとって幸せなこと。</p>
程田委員	<p>極端な例として、人材を軸にして東京の会社が流山に移転する、といったことは実現するのか。</p>
尾崎社長	<p>実際、その話をいただくことはある。東京に本社がある企業が新しい子会社オフィスをTristに作った例がある。</p>
山崎委員	<p>ワークライフバランスを考えると、職住近接が実現するメリットは大きい。</p>
程田委員	<p>とは言え、サテライトオフィスでも拘束時間は存在する。吉川市内</p>

	<p>の企業でワークライフバランスの推進、支援を行い、在宅勤務等ができるようになるとういのは。</p>
尾崎社長	<p>それがベストだと思う。働ける場所が見つからずに心折れる人も多い。市内に働ける場所があるのがよい。</p>
太田会長	<p>働く人の幸福実感という点では、テレワークは有効と考えるが、産業振興という点ではどうだろうか。</p>
程田委員	<p>市外で収入を得て、市内で消費するという流れは生まれると思う。市内消費の促進策があればよい。</p>
中原市長	<p>勤労者の幸福実感向上であれば、産業振興基本条例の目的とも合致する。</p>
太田会長	<p>市内の中小企業も一層の努力が必要である。</p>
尾崎社長	<p>流山市では、企業の経営層に対し、テレワーク推進の働きかけを行っている。</p>
	<p>～休憩～</p>
	<p>事務局より資料２・３について説明。</p>
事務局	<p>資料３については、産業振興基本条例検討時に頂いた意見と概ね重複しているが、市内企業の連携を深めたいという意見が多く出ている。また、ワークライフバランスの観点で企業を評価する市の認定制度があるとよいとの意見があった。そういった制度の設置も見据え、計画の書き方を検討したい。</p>
中原市長	<p>計画から読み込める施策は直ちに実行可能なのだろうか。スピード感を持って取り組めるようにしたい。</p>
柏瀬委員	<p>ただ、施策の優先度については会議で議論すべきである。</p>
近藤委員	<p>施策の実行性を上げるためには、計画案に記載の「産業振興会議で協議」という表現が合わないかもしれない。</p>

山崎委員	この会議の場で、皆さんからもらったアイデアや意見を具体化して、翌年度の事業として落とし込み、皆さんに改めて示したい。
事務局	ご指摘頂いた部分の記載の検討、会議の位置づけについて、計画案の記載を修正する。
柏瀬委員	産業振興会議のカバーする範囲を今一度しっかりと定義し、明確にアウトプットを示せるようにしたい。
事務局	資料の説明は先の通りである。今回追記した施策の内容についてはどうだろうか。
中原市長	エネルギーに関しては、市のエネルギー使用量を分析し、どの部分を再生可能エネルギーで賄うのか等、具体的なビジョンを作って進めていきたい。それができないと、どのような手段をメインに据えるかは明記できないと思う。さらに、挑戦的なエネルギー開発も支援したい。
尾崎社長	子育てと仕事の両立については書かれているが、介護についても入れておいたほうがよい。ダブルケアの問題もあるので、限定しないほうがよいと考える。
事務局	了解した。次回会議では最終版として文章校正も行った版をお示ししたい。
太田会長	勤労者へのアンケートはどうか。
事務局	各種団体を通じて依頼する形で進めていきたい。
山崎委員	尾崎社長にお伺いしたいが、勤労者の視点で一般的な課題となっていることはどんなことだろうか。
尾崎社長	責任と報酬は表裏一体であることから、企業は勤労者に責任を負わせたい、一方、子育てや介護と仕事を両立する上では大きな責任を負いたくない、そのバランスをどう取っていくか。企業にも期待をする

